

## 平成 21 年度第 3 回機械工学教育 FD/IT 活用研究委員会議事メモ

- I. 日時：平成 21 年 9 月 25 日（金） 10:30 から 12:30 まで
- II. 会場：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：曾我部委員長，高野委員、田中委員，田辺委員，角田委員，井端事務局長，森下，恩田

### 議 事

#### 1. 学士力の詳細設計について

委員長より，学士力とコアカリキュラムの対応（資料 2）に関して解説を付け加えた旨の説明があった。続いて学士力と到達目標（資料 1）に関する案の説明があった。これに対して”求められる学士力”は目標であり，その目標に対する到達度をもっと具体的に示すべきとの意見があった。そこで資料 1 の“到達目標”を到達度に修正し，“求められる学士力”と“到達度”の表現について種々の意見交換が行われた。各委員からの主な意見と追加修正点は以下のとおりである。

- ・ これまでの議論では学士力（最右欄）は到達度の記述なしに独立した表現であったが，到達度と並記することになったので，この表現も修正するべきである。
- ・ 学士力(1)の到達度①において，“知識を得る”＋“合理的な説明”であると知識とその活用が乖離している感を与えるので“知識を用いて… 説明できる”という表現に変える。
- ・ 学士力(1)の到達度②において，“それを用いて課題を解決”の“それ”および“課題”が曖昧であるので，この表現をやめ，具体的な行動対象を記述する。
- ・ この行動対象についてどこまで含めるかの議論がなされ，機構設計，機能設計，強度計算，図面作成等と列記することとした。
- ・ “CAD/CAE”は設計の手段であり，到達度②に“CAD/CAE”の活用を明記してあるので目標を規定した学士力の表現(最右欄)からは削除する。
- ・ 学士力(2)の到達度①において，“合理的に”は範囲が広すぎ解釈が曖昧になるので削除する。
- ・ “CAM”は製造の手段であり，到達度②に“CAM”の活用を明記してあるので目標を規定した学士力の表現(最右欄)からは削除する。
- ・ 学士力(3)の到達度①において，“適切な考え方”は測定基準が曖昧であり，この部分は削除する。
- ・ “適切な考え方をもつ”は，“もつ”だけでなく“考え方”言い換えれば倫理的な判断力を設計に反映させることが重要である。この点は到達度②に織り込まれている。
- ・ 学士力(4)の到達度①において，“社会のニーズ”まで求めるのは大学レベルでは難しい。また，改善は必ずしも社会のニーズからだけ行われるものではない。
- ・ 学士力(4)の到達度②において，“改善案”では狭いので“代替案”を付け加える。
- ・ 学士力(4)の表現の“身の回り”は，目標(最右欄)から削除し，到達度を含めた方がよい。また，“構想する”は測定可能量ではないので削除する。

以上の意見を踏まえ、学士力との表を追加修正し、各委員に配布した。

2. 今後のスケジュールについて

次回にはワーキングを終了し、外部意見を聞くプロセスに入りたいので、今回の修正案ならびに測定方法の部分を次回までに見直すこととし、この件は各委員へ持ち帰り次回までの宿題とすることとした。

次回委員会：10月16日（金） 17:30 - 19:30（予定）

以上